



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学報

第66号

2019年度キリスト教活動年間テーマ



正義と平和を共に創造しよう

— Striving together for peace & righteousness —





学校法人 沖縄キリスト教学院
理事長
伊波 美智子

「SDGs パートナー宣言」 ～地球の将来世代に伝えたいこと～

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、
あなたがたも人にしなさい。」
(マタイによる福音書 7 章 12 節)

2018 年の暮れに発表された世相を表す漢字は「災」でした。地球規模で進む台風、地震、豪雨、干ばつ、森林火災等の甚大な被害、大規模な戦争になりかねない地域紛争や武力衝突等々、これらがもたらす国際関係の緊張や不安は 2019 年も緩和されるどころか、2020 年に持ち越されました。

自然災害激化の原因は、人災ともいえる地球温暖化だといわれています。深刻化する地球環境問題は、「気候非常事態 (Climate Emergency)」ともいうべき時にきています。ぬるま湯のなかのカエルはそれと気づかないうちにゆで殺されてしまうという比喩を真摯に受け止め、「目を覚ましていなさい」という聖書の警告に耳を傾けたいと思います。

このような時代にあってわたしたちはこれらの課題にどう取り組めばいいのか、その処方箋のひとつとして提唱されているのが、2015 年 9 月に国連総会で採択された「SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)」です。2030 年を目標年として、海洋・陸地・大気・環境汚染に歯止めをかけ、社会環境 (教育、情報、福祉、健康、安全等) の格差を是正して貧困を解消し、平和、ジェンダー、人権などの問題に国際規模で取り組む 17 の目標と 169 のターゲットが示されています。

SDGs は、本学の建学の精神ともきわめて親和性の高いものです。その一例として、「第 1 回ちゅうちゅう一草の根平和貢献賞」を受賞した沖縄キリスト教平和総合研究所が事務局を担う「沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」が挙げられます。地球規模で考え、地域に密着した活動を展開し、専門性を生かして社会に貢献すること、言い換えれば、建学の精神を具体的な行動に移していく SDGs 活動の推進は本学に課せられた社会的責任だといえます。



沖縄キリスト教短期大学
沖縄キリスト教学院大学
学長
友利 廣

学院運営の座標軸を 「建学の精神」を据えよ

学長任期を終えるに際し、本学院に集う学生と教職員の皆さんへ最後のメッセージを贈ります。まずは、話題を欧州に向けます。欧州議会は 29 日に英国の EU 離脱を賛成多数で承認しました。英国の EU 離脱は間近に迫っていますが、誇り高い英国は何処へ向かうのでしょうか。意気揚々ではありますが波高しです。

ところで、欧州の動きに抗うかのように、本学院は創立 60 周年を記念し「沖縄の平和への道標とアジア共同体」と銘打った寄附講座を開設しました。オムニバス形式の講義は「紛争や差別のない共通の価値観の下で平和共存を標榜するアジア共同体創生に向けて、沖縄として何ができるか。アジア共同体創生と本学院が掲げる建学の精神『国際的平和の島』の接点に、万国津梁の精神をいかに注入するか」を多角的に論ずるもので、講師陣の筆頭格は遠隔講義で登壇するヨハン・ガルトゥング博士と鳩山由紀夫元首相、そして故大城実牧師です。

そもそも、本学院の開学の辞に刻まれた建学の精神は沖縄を“軍事的要衝地”とする認識を糺し、“平和の要石”にして平和国家建設に貢献するという高邁な使命感を謳い、大学の教育力をその担い手の養成に傾注すべきとしています。混迷する世界情勢だからこそ、建学の精神の確かさを共通な価値観として共有すべきと思うしだいです。

それでは、第二コリントの信徒への手紙 8 章 11~12 節のみ言葉「だから、今それをやり遂げなさい。進んで実行しようと思ったとおりに、自分が持っているものでやり遂げることです。進んで行く気持があれば、持たないものではなく、持っているものにおうじて、神に受け入れられるものです」を締め括りのメッセージとします。

次期学長に聞く

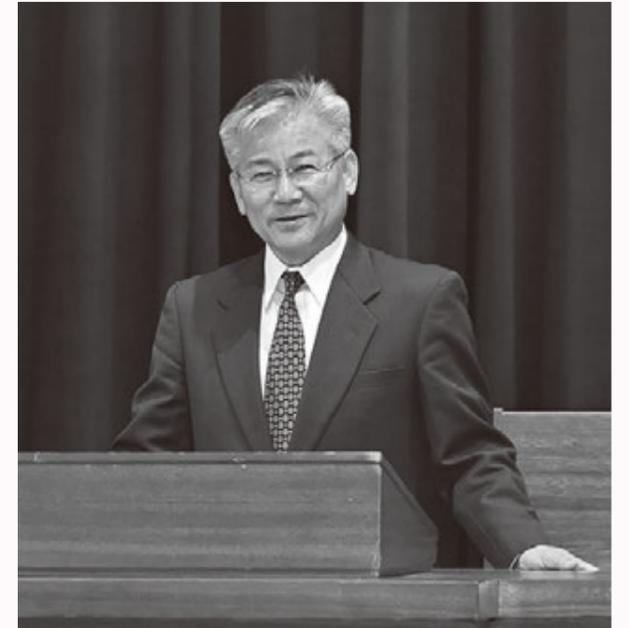
未来に向けて—「共に」

2020 年度より新たに学長職を拝命いたしました。日本の大学史上三人目の「在日」学長であり、日本における同じマイノリティとしての歴史に刻まれますことで、三重の光栄と畏れを感じます。

本学は、これまで沖縄の英語教育と保育士養成において大きな役割を果たして来ました。又、建学の精神を基礎として継承し、独自の教育を実践してきたと認識しております。故に、先ず本学の変えてはならない価値を再発見し、発展させたいと考えております。一方で、大学を取り巻く時代状況は、厳しく変化しております。それらに対応した改革に当たることが喫緊の課題です。その為の教育を中心にした改革を進めたいと思います。

この難しい状況の中、米国第 35 代大統領ケネディの就任演説が想起されます。彼は、南北の経済格差・貧困問題と米ソによる東西冷戦・軍拡が熾烈化する時代に、「人類共通の敵、すなわち圧政、貧困、疾病、そして戦争そのものとの闘い」という壮大な理念を訴えました。その内の有名な一節が「アメリカの私と志を共にする皆さん (My fellow) 国家が皆さんのために何が出来るかを問わないで欲しい。皆さんが国家のためになにができるのかを問うて欲しい。」「世界の私と志を共にする皆さん (My fellow) …我々が人類のために共に何が出来るのかを問うて欲しい。」です。

文部科学省の教育改革に、「ガバナンス強化」が挙げられますが大学人としてリーダーシップと共に忘れてはならないのは「志を共にする」(fellow) によるフォロアシップ (followership: 「補助者」自主的な判断と行動でリーダーを支え、組織成果の最大・最善化に資する) の強化です。両者がバランスよく補完し合い共に歩むならば、明日の沖縄キリスト教学院は、より輝かしいものになると信じるものです。



Profil

金 永秀 (きむ よんす) 教授
1957 年、在日コリアン二世として兵庫県出生 (63 歳)

【最終学歴】
サンフランシスコ神学大学院博士課程修了 神学博士 (牧会)
(2005 年)

【主な経歴】
在日大韓基督教総会牧師
カナダ長老教会招聘によるカナダ先住民宣教研究
社会福祉法人永信会 特別養護老人ホーム永生苑豊橋苑長
米国日系人教会日語部牧師

【本学での職位・役職等】
2000 年 10 月 沖縄キリスト教短期大学採用
2004 年 4 月 沖縄キリスト教学院大学転籍
宗教部長、沖縄キリスト教平和研究所所長、人文学部長歴任
2017 年 10 月 学校法人沖縄キリスト教学院理事

* 理事長あいさつ・学長あいさつ	2
* 次期学長に聞く	3
* 【特集1】教員の活躍	4
* 【特集2】大城実先生ありがとうございました	5
* 教員・卒業生の活躍	6
* 学生の活躍	7
* 平和・キリスト教教育活動	8
* 沖縄キリスト教学院大学トピックス	10
* 沖縄キリスト教短期大学トピックス	12
* 研究活動	13
* 大学・短期大学【共催】	14
* キリ学祭	16
* 部・サークル紹介	17

CONTENTS

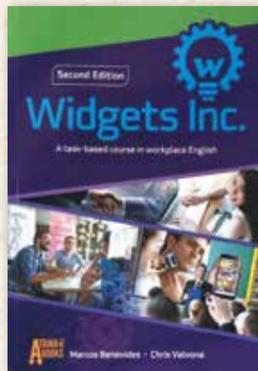
* 国際交流活動	18
* 特別公開講座	19
* OCUの新しい取り組み“KiriDai-alogues”	19
* キャリア支援	20
* 2019年度 主な図書館行事	21
* 学生支援・活動	22
* この一年の取り組み～沖縄キリスト教平和総合研究所～	23
* 地域貢献	24
* 退職教員メッセージ	26
* 同窓会・後援会の活動報告	26
* 寄付感謝報告・2019年度人事・2018年度決算報告	27
* Open Campus2020・大学見学・2021年度入試日程	28

Christopher Valvona 教授 「革新的語学教育賞 最優秀賞」受賞

人文学部英語コミュニケーション学科のChristopher Valvona教授が出版した英語の教科書「Widgets Inc.」が英国国際文化交流機関BRITISH COUNCIL(ブリティッシュ・カウンシル)主催2019年度革新的語学教育賞「革新優秀教材・カリキュラム」部門の最優秀賞を受賞しました。

革新的語学教育賞には世界中から約150点の応募があり、5部門に約20点がノミネートされ、Valvona教授の教科書は「革新優秀教材・カリキュラム」部門にノミネートされた5点の中から最優秀賞の1点に選ばれました。

Valvona教授と一緒に教科書制作を行った桜美林大学のBENEVIDES, Marcos R講師と共にイギリスロンドンで開かれた授賞式に参加し、表彰を受けました。



授賞式に出席した Christopher Valvona 教授 (右) と BENEVIDES, Marcos R 講師

Valvona 教授の受賞コメント

このような賞にノミネートされただけでも、とても光栄なことであり、まさか受賞するとは思っていませんでした。ですから、今回の受賞はとても嬉しく思います。これをきっかけにこの教科書はもちろんのこと、この教授法についても理解が深まり、より多く、学生のコミュニケーション能力向上に貢献出来ると幸いです。



valvona 教授



インタビューを受けるお二人

浜川 仁教授「沖縄文化協会賞」受賞

文化協会2019年度公開研究 41回「沖縄文化協会賞」



(左から) 浜川仁教授、屋良健一郎上級准教授、久貝典子さん

賞の内容

沖縄キリスト教短期大学 英語科 浜川仁教授が沖縄文化協会賞 仲原善忠賞を受賞しました。

沖縄文化協会賞は、沖縄文化協会(波照間栄吉会長)より、沖縄研究の分野で活躍する3人の若手研究者に贈られる賞です。今年第41回にあたり、比嘉春潮賞に名桜大学の屋良健一郎上級准教授、金城朝永賞に県立芸術大学附属研究所共同研究員の久貝典子さん、そして仲原善忠賞に本短期大学の浜川仁教授が選ばれ、2019年11月16日に沖縄国際大学で授賞式が行われました。

浜川仁教授の受賞コメント

正直、ほんとうに運が良かったと思います。科学研究費を使ってイギリスの海軍図書館で調査し、興味深い史料を見つけることができましたし、たくさんの方々から研究の手ほどきをしていただきました。稿本の翻刻、分析、出版まで、メンターのようにご教示下さった多くの先生方に感謝しています。



【特集 2】 大城実先生ありがとうございました

大城実先生(85歳)が2019年9月20日(金)午後7時54分に召天されました。告別式は2019年9月30日午後2時から沖縄キリスト教学院仲里朝章記念チャペルにて、石川栄喜牧師の司式により執り行われ、先生のご友人、教会関係者、在学生、卒業生、学内関係者などが参列し、神の御許に旅立たれた先生とのお別れを惜しみました。

先生は、沖縄キリスト教短期大学の学長を1979年から3期12年、沖縄キリスト教学院理事長を1986年から2期6年務めました。任期中の1989年には、首里キャンパスから西原キャンパスへの移転を実現させました。また、2009年10月に開所した沖縄キリスト教平和研究所の所長を2011年から2018年まで務められました。平和を愛する先生は「沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」をTEAM琉球の学生と共に立ち上げ、2013年からその活動を続けてこられました。その活動は、県内で平和につながる身近な社会貢献活動に取り組んでいるとして「第1回ちゅうらうちな一草の根平和貢献賞」(2019年12月)を受賞する学びへと成長しました。



【1979年~1991年】第4代学長
この頃は、自慢のお髭がまだありません。



【1992年3月】パイプオルガンを贈る運動寄付依頼(中部教役者会 金武シオン教会)



【2003年】学院理事会への出席
理事として23年間、学校運営にたずさわりました。



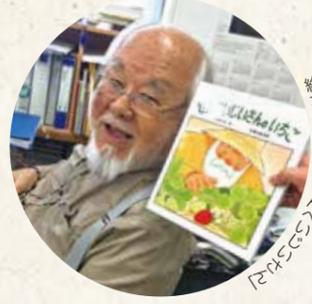
【2014年】沖縄キリスト教学院大学開学
10周年記念式典にて歴代学長と



【2015年】「沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」の参加者



【2016年】実先生の戦争体験を朗読劇として上演しました。出演者した学生と。「戦争は人を人でなくする」という言葉が印象的でした。



先生にそういって
絵本の主人公に
TRANSFORMER



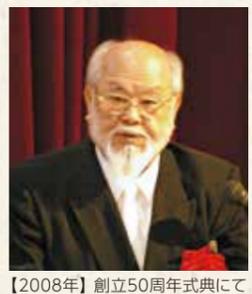
はい！
ホクにも
何でも
聞きなさい



2016年9月22日82歳の誕生日!
甘い物も大好きです♪



2016年10月大好きなお姉さまと



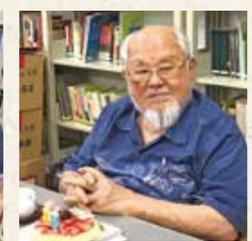
【2008年】創立50周年式典にて



大城実はこちらにいますよ〜
(創立50周年記念植樹)



いちどうし山里勝一先生と



もう食べていいかなあ?
(2018年84才)



下地玄毅先生、金城重明先生と一緒に。昔話に花が咲き、ご機嫌です。(創立50周年記念祝賀会)



実先生が仕事をされていたデスク(沖縄キリスト教平和総合研究所)

ウフグスク(大城)実 先生

- 1979.10~1991.9 沖縄キリスト教短期大学第4代学長(3期12年)
- 1986.10~1992.12 学校法人沖縄キリスト教学院第6代理事長
- 1996.10~ 学校法人沖縄キリスト教学院理事
- 2011.5~2018.3 沖縄キリスト教平和研究所所長
- 2018.4 沖縄キリスト教平和総合研究所名誉所長



上地 恵龍 副学長が 県観光功労者として 表彰されました



上地恵龍副学長が、8月1日観光の日に沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハにおいて、令和元年沖縄県観光功労者として表彰されました。上地先生は、長年にわたり観光業界に携わってきており、観光業界を担う若手の育成に尽力しています。

また、沖縄コンベンションビューロー副会長や沖縄県観光審議会会長を務めるなど、観光行政の面から観光振興に貢献してきました。功労者を代表して「このような光栄な賞を得ることができましたのは、よき先輩皆様のご指導とよき関係者皆様におかけです。心より感謝を申し上げます。そして日々変化する観光市場に対応しておられる行政をはじめ観光業界皆様のご尽力に、深く敬意を表し、私たちも沖縄の観光発展のためにそれぞれの活動に引き続き精進して参りたいと存じます。それが今までお世話になった皆様への恩返しにつながり、観光業界皆様の期待に応える私たちができる唯一の方法だと信じております。」と挨拶を述べました。

※沖縄県では、8月の1ヶ月間を「観光月間」とし、さらに沖縄県観光振興条例で定められている8月1日を「観光の日」としています。



沖縄県観光功労者表彰式

“If it doesn't challenge you, it won't change you”

沖縄県内から初めて、国際機関「米州開発銀行 (IDB)」の職員となった仲村秀一朗さん。2019年秋からジャマイカオフィスに勤務しています。自らの経験やキャリアを振り返ってもらい、現在の華々しい職につくことができたポイント。そして後輩や沖縄の10代に伝いたいメッセージを語ってもらいました。

1. どのようなキャリア目標をもち現在に至るのか

学部生のころからキャリアの戦略と目標は一貫していました。(1)英語を使う仕事に就くこと(2)刺激的で楽しい仕事に就くこと(3)海外で働くこと、の3つを基準にどの職業につくかを考えました。そのために(1)語学力を磨く(2)専門分野をもつ(3)オンリーワンになるという3つの戦略を用いて行動した結果、現在の職につくことができたと思います。

2. 仲村秀一朗×キリ学

キリ学にはいろんな面で世話になりました。在学中に在日米軍嘉手納基地の消防隊に採用していただくことができましたが、その背景にはキリ学のサポートがあったからだと思います。ランチ時間にゼミ担当の先生の研究室にお邪魔してご飯を食べながら時事問題を英語で議論をしたり、放課後に特別に英検対策をしてくれたりと在学中に語学力を高めることができました。そのおかげで卒業までに英検1級、TOEIC900点以上を取得することができました。

3. キリ学卒業生として後輩へメッセージ

- (1)どのような仕事につきたいかはともかく卒業までに最低でも英検準1級、TOEIC860点以上を取得してください。(TOEFL, IELTSであれば尚可)留学経験はなくても十分に取得可能です。それに加えて自分の興味のある資格や技術(簿記、PMP、プログラミング等)を取得することができれば就職に困ることはほぼないと思います。
- (2)沖縄だけでなく日本や海外にどのような仕事があるのかを徹底的に調べてください。「自分が好きなことを仕事にしたい」という気持ちもわかりませんが、現実的には世の中に存在する仕事の中から自分の興味のある仕事を選び、それに向かって努力をするという人が大半です。
- (3)仕事についた後からが勝負です。仕事についてからも自己研鑽を続けてください。仕事をしながら大学院へ通うのも可能な世の中です。ある程度経験を積んだ後さらに上のレベルへ転職できるというオプションが常にあることを忘れないでください。

4. 沖縄の10代に伝えたいこと

成功したい、幸せになりたい、いい仕事について高い給与をもらいたいという欲求をもつことは「イタイ」ことでも「意識が高い系」でもなんでもありません。もしそれらの目標をバカにする人たちが周りにいるのなら、そのコミュニティはあなたにとって適しているとはいえません。周りの人の意見を聞いているほど人生は長くはないのです。先生や親の他に「このような人になりたい!」というロールモデルもしくはメンターを探してみてください。その人の生き方を真似するだけで人生が豊かになると思います。

仲村 秀一朗
沖繩キリスト教学院大学
人文学部
英語コミュニケーション学科卒

略 歴

- 沖縄県立普天間高等学校卒業
- 沖縄キリスト教学院大学卒業 2006.4-2011.3
- テキサス州Goodfellow Air Base Fire Academy 卒業 2010.1-2010.5
- 吉備国際大学連合国際協力修士課程修了 2012-2014
- メリーランド大学グローバルキャンパス危機管理修士課程 2018.1-現在
- 在日米軍嘉手納空軍基地消防隊 2009.9-2017.4
- 在日米軍トリステーション消防隊 2017.5-2017.9
- JICA青年海外協力隊
ジャマイカ国ポートランド教区事務所防災課
(派遣前研修含む) 2017.10-2019.8
- 米州開発銀行ジャマイカオフィス 2019.9-現在



上司や同僚と現在進行しているプロジェクトについてミーティング



米州開発銀行50周年を記念したイベントで同僚と

キリ学に入学して、キリスト教への考え方がすごくわかりました。授業も先生方が熱心に教えてくれて、勉強もたのしくできます。波嘉敷もとても楽しく一番の思い出です。(保育科1年 京香)

ハワイ研修や海外ボランティア研修などの研修が多くあり、講義を通して他の国について学べるのが楽しい!自分の視野や考え方が変わるので、将来にも役立つと思う。(英コミ2年 ナオヤ)

トビタテ!留学 JAPAN



英語コミュニケーション学科
4年次
知念 ゆかり

「沖縄からアジアへトビタテ!留学 JAPANプロジェクト」は、将来の沖縄産業界を牽引するグローバル人材の育成を目的とし、選抜された学生をアジア各国へ派遣するプログラムです。私は今回13期生として採用されました。私は「まちづくり」に関心があります。台湾では、国を挙げて文化と創造性を結び付けた「文化創意産業計画」を推進しており、この計画を学び、沖縄のまちづくりに貢献したいと考え、留学先を台湾に決定しました。留学中は、さまざまな人との出会いがあり、台湾の歴史、文化、社会構造について見聞を広めながら沖縄と比較し、これから何をすべきかを考えることができました。また、現地のユースホステルでインターンシップを体験することもできました。帰国後も引き続き台湾との国際交流の機会を企画運営し、これまで以上に台湾とのネットワーク構築に努めていきます。



英検 1 級合格!



英語コミュニケーション学科
4年次
島袋 里穂

英語コミュニケーション学科4年次 島袋里穂さんが実用英語技能検定1級に合格しました。島袋さんは、卒業までに1級合格の目標を立て勉強を続けながら、学内の準1級対策講座(キャリア支援課主催)を活用し、準1級を取得後、2回のチャレンジを経て1級に合格しました。また、対策講座や普段の勉強だけではなく、月曜礼拝での同時通訳実践や夏季同時通訳集中講座を受講したり、学習支援センターのチューターも務める等、積極的に英語力を磨いてきたそうです。

本学では、学生の語学力向上を応援しています。在学中に対象資格の難易度によって奨励金を給付する「資格取得奨励金給付制度」を設けており、島袋さんには10万円の奨励金が支給されました。

島袋さんにインタビュー

- Q: 勉強のコツはありますか?
A: 筆記試験には単語力、文法力が重要だと思います。1、2年次必修の文法、英作文の授業を大切に、しっかり予習復習をし、わからない点はその日のうちに解消しました。コツコツと積み上げていくことが結局は近道だと思います。
- Q: 勉強が嫌になったり、あきらめそうになったことは?
A: そういう時は休憩しました。そして、在学中に1級を取ることを1年次に目標にしたことを思い出し勉強を続けました。
- Q: 今後の目標は?
A: 海外の大学院進学に向けて準備をしています。

外務省本省へのインターンシップ

実習期間: 2019年9月18日~28日

外務省へのインターンシップにキリ学生が2人選ばれ、昨年に引き続き本省(霞ヶ関)での実習となりました。インターン中の参加費用(滞在費、航空券)を株式会社沖縄銀行様から今年度もご支援いただきました。



外交史料館前(東京都港区)九州・沖縄サミット開催(2000年)を記念して作成された壺屋焼土ブルシーサーと一緒に

インターンシップに参加して

- ・東京でのインターンシップということもあり、とても緊張しましたが、国際協力の現場を実際に体験したからこそ大きな気づきや学びがあり、自分のキャリアについて刺激を受けました。
- ・外交に華やかなイメージを持っていましたが、その裏側には地道な努力の積み重ねがあることがわかりました。
- ・外交は言語や文化を学ぶことだけでなく、政治に関する情報や、政府や現地の考えについても理解しバランスよく案件に組み入れることが必要だと感じました。



外務省本省の前で喜瀬なみ音さん(左)と大屋七海さん

・参加学生・

英語コミュニケーション学科
3年次 喜瀬 なみ音
4年次 大屋 七海

■クリスマス礼拝と祝会

飼い葉桶の乳飲み子イエス・キリスト

2019年12月20日

12月20日(金)午後6時より仲里朝章記念チャペルで、クリスマス礼拝が行われました。司会は人文学部4年の神谷恵理さん、説教は金永秀宗教部長により「飼い葉桶の乳飲み子イエス・キリスト」と題しておこなわれました。音楽は真栄城隆司名誉教授の指揮するストリング・アンサンブル、音楽担当の先生方三人と聖歌隊・キリスト教芸術クラスの学生達、平安名まなみさん(バイオリン)が担当し、ハレルヤコーラス他の讃美歌、又、ウチナ〜グチをはじめ、本学院の学生・教職員による多くの言語と手話クラスの学生により聖書のクリスマス物語が朗読されました。クリスマス献金も捧げられました。礼拝後、体育館で食事を囲んで祝会がもたれました。友利学長の挨拶にはじまり、三線、ゴスペル演奏、ミュージックアンサンブルサークルの演奏、最後に全員で「きよこの夜」を歌って伊波美智子理事長の祈りで閉会することができました。



■HOPE- 沖縄・平和キャンプ

伊江島と辺野古から平和を考える

2019年8月12日~13日

「HOPE-沖縄・平和キャンプ」は、学生8名、教職員3名の計11名の参加で、8月12日~13日の日程で行われました。開会・閉会礼拝と講演が金永秀宗教部長によってもたれました。講演は「日本の平和と沖縄の犠牲」と題し、琉球処分から沖縄の米軍基地に至る歴史を学びました。嘉数高台では、沖縄キリスト教センター館長・又吉京子氏から普天間基地の歴史と女性の基地返還抗議行動について説明を受けました。午後、伊江島へ渡り、「ヌチドゥタカラの家」館長の謝花悦子氏から阿波根昌鴻氏や農民の非暴力による土地闘争と平和活動についてお話を伺い、その熱い思いを受け止めました。その後は、ビーチでBBQ、スイカ割り、花火を満喫しました。2日目は金城盛和氏のガイドで伊江島の戦争を学びました。午後、辺野古に移動、山本英夫氏から基地建設の歴史と反対運動に学び、大学に戻りました。寝食を共にする中で多くを学ぶことができました。



辺野古の浜で話を聴く ヌチドゥタカラの家 嘉数高台で普天間基地の話を聴く 謝花悦子氏の講話 ビーチでBBQ 伊江ビーチで

リラックスして、レッスン室でピアノを弾ける時間が、僕にとっては最高の一時です。屋上から見える景色もむちゃくちゃ綺麗で、学校が高台にあることを嬉しく思います。(保育科2年 塚田 響)

キリ短にはネイティブの先生がたくさんいるので、リスニング力は入学前よりけっこうのびたと思います。英語が学べる環境が一番整っている学校だと思います。(英語科1年 NOA KOKI)

■前後期キリスト教週間

アジアの抑圧されている人々と私達

前期:2019年 4月22日~ 4月26日
後期:2019年 10月21日~ 10月25日

【前期キリスト教講演会】

沖縄在住の救急救命医師として活躍する林峰栄氏を講師に迎えて「ロヒンギャ難民キャンプでの活動報告」をしていただきました。現在、世界的に問題になっているミャンマーの少数民族(約100万人)が、国籍も認められない差別と激しい迫害状況の中で苦しんでおり、難民として流出してキャンプでの生活(約80万人)を余儀なくされています。林先生はそのキャンプに医師としてボランティア活動をする中で現状の現状と思いを熱く語られました。



林峰栄氏(前期キリスト教講演会)

【後期キリスト教講演会】

聖公会司祭・桃山学院教育大学チャプレンの松平功先生により、「愛することは、他者に寄り添うこと!?!」という講演題でお話をいただきました。宗教社会学の紹介と「隣人を自分のように愛しなさい」というキリストの言葉がおろそかにされている差別の現実、現代の若者の死生観、御自身が運営される「守口ぶどうのいえ」の紹介、そして映画「トイレのピエタ」を例にとりながら真に寄り添うことの意味を伝えていただきました。



松平功氏(後期キリスト教講演会)

学生企画礼拝

2019年度は前期1回、後期3回の学生企画礼拝を行いました。前期は「はじめての礼拝~礼拝の意味を学ぶ」(6月17日)と題して学生宗教委員(HOPE)が礼拝の意味や目的について項目ごとに説明をしながら進め、賛美と動画『ブリッジ-知られざる愛の物語』を見て「神の愛」を学びました。

後期は、HOPE学生宗教委員企画礼拝に加えて学外研修の報告を行いました。

10月28日には、「HOPE-沖縄・平和キャンプ報告」を行いました。報告を前に、キャンプ参加者同士で、平和研修の感想をシェアし、ディスカッションを繰り返して学びを深め、全員で報告をまとめました。聖書のことばと照らし合わせて、非暴力の意味をも伝えることができました。

12月9日の「フィリピン海外ボランティア報告」では、フィリピンの環境問題と貧困について、実際に現地での生活を体験し、家族との出会いと交流で互いの理解を深めた様子が報告されました。又、帰国後の活動と今後につなげる活動の在り方が紹介されました。クリスマス直前の礼拝では「喜びあふれるクリスマス」と題して学生宗教委員(保育科2年次)による紙芝居と、特別賛美「すばらしいHoly Night」がなされました。



HOPE-沖縄・平和キャンプ報告

フィリピン海外ボランティア報告

紙芝居「ひつじかいのクリスマス」

学生宗教委員会(HOPE)について

キリスト教信仰に立つ、本学ならではの大切な学生組織です。毎週月曜日に行われる礼拝の司会や、礼拝音楽の演奏、キリスト教行事の企画・運営その他のキリスト教関連行事を行います。学生企画礼拝では、学生宗教委員が中心となって礼拝の内容について企画し、メッセージや聖歌隊としての賛美などを行っています。また、キリスト教行事ではランチ会、映画上映会などを行いました。学生宗教委員のそれぞれの特技や個性を生かして活動しています。クリスマスチャンでない学生も参加歓迎です。今後さまざまな学生に関わってみたいと思います。



月曜礼拝について

本学院では、毎週月曜日(午前9:50~10:30)に礼拝を行っています。ネイティブスピーカー教員による英語礼拝や学生企画礼拝なども実施しており、学生が司会やピアノ・オルガンの演奏に関わっています。また、日本語から英語への同時通訳が教員指導の下、行われます。礼拝は神を賛美し、祈り、聖書の言葉を聞く時ですが、それはまた、キリスト者でないにも生きる意味を問う時でもあり、キリスト教主義教育の根幹となる大事な時間です。



キリ短での英語の授業やハワイ研修を通して視野がとて広がりました。キリ短にしかないクリスマス礼拝では聖歌隊として参加でき、みんなで祝えたことが嬉しく楽しかったです。(保育科2年)

観光業界のことについて詳しく学ぶことができる点が良いと思う。また、オーラルの授業で外国人の教員と話すことで、前よりコミュニケーション能力や英語力が身についた。(英語科1年 m)

Oxford 大学で学ぶサマープログラム

2019年9月11日～20日



卒業証書を持って

2019年はオックスフォード大学で行われる沖縄キリスト教学院大学の3回目の海外研修になりました。9月11日から20日まで4人の参加学生がChristopher Valvona教授に引率され、先生の母校であるオックスフォード大学内の、セント・エドモンドホールのキャンパスで、イギリスの文化と歴史を学びました。この研修の参加者は大学の寮で寝泊りし、同大学の学生又は卒業生による講義を受け、オックスフォード大学やその周辺、首都ロンドンへの視察をしました。またその他のアクティビティを通して英国や英国文化に対する理解を深める機会を得ました。

午前中のプログラムでは、オックスフォード大学と教育、英文学とオックスフォード縁の作家、歴史(主にヘンリー8世の時代とローマカトリック教との離別)、貴族と階級システム、イギリスポップカルチャーなどのトピックについてすべて英語で学びました。休憩中には、イギリス式紅茶がふるまわれ、気軽に授業の内容を確認したり質問したりする時間も設けられました。

午後はオックスフォード地域とロンドンを中心に視察や体験を通し、午前中に学んだことを深く理解するものになりました。その内容としては、オックスフォードと大学内見学、数多くの文豪を生んだクライストチャーチの見学(映画ハリー・ポッターのロケ地)や、アリストア、プレナム宮殿ツアー、アフタヌーンティー体験や、シェイクスピアの劇「マクベス」の観劇も行われました。また滞在中は色々なイギリスの食事も味わい、オックスフォード大学の名物舟漕ぎも体験し、研修を満喫しました。

参加した学生のアンケートやコメントからは、「興味深い」「学習意欲が上がった」「楽しかった」などの報告があるほか、参加者がお互い助け合うことにより、研修や講義内容の理解度を上げる努力がなされたように見受けられました。参加者は帰国後、英国文化やほかの文化に対する学習意欲が増したほか、英語で新たな科目を学習する意義なども見出したようです。

参加者の中の2人はすでに「British Cultural Studies」(英国文化スタディ)を受講しており、研修参加の際に学んだことが生かされ、さらに深い内容についても学習できたようです。事前学習として、今回観劇した「マクベス」の内容は英国学生用に書かれた参考書を使用し、他のオックスフォード縁の文学も予習したことにより学生の理解がより深まったと思われます。今回もこの研修は無事修了することができたが、次回はさらに多くの学生が参加してくれることを期待しています。



中庭での Tea break の様子



授業の様子



オックスフォードツアー



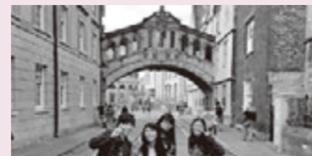
バッキンガム宮殿にて



Abbey Road にて



ハリー・ポッター撮影場所、ニューカレッジ



Hertford Bridge の前で



プレナム宮殿にて



卒業式

18人の教員免許取得者

教職課程

2019年度も18人の学生が中学校・高校の一種免許状(英語)を取得して本学を巣立ちました。単位取得、留学、就職活動、採用試験対策をしながらの教員免許取得はとても大変だったと思います。

「先輩方の報告を聞いて、私には無理だと思ったけど、頑張って履修を続けて本当に良かったです。」

これは、今年の教育実習報告会での学生の発言です。率直な感想だと思います。教員免許を取得するためには、多くの単位取得と同時に、2年次に学校ボランティア実習、3年次に介護等体験、4年次に教育実習といった実習をこなさなくてはなりません。途中でやめたくなったことも多かったと思いますが、ひとつひとつ乗り越えて、大きく成長し、確かなものを得たことなのでしょう。この経験は、教職に進むか否かを問わずに、今後の皆さんの人生の糧となると確信しています。ご卒業おめでとうございます。



演習や模擬保育など実際の保育を想定しての授業がたくさんあります。行事も多く、楽しく充実した大学生活を送っています。ぜひギリ短にきて下さい! (保育科1年)

ギリ学に入って、コミュニケーション力が身についた。授業でプレゼンをしたり、発表する機会が多いし、オーラルの授業ではネイティブの先生と沢山話すことでコミュニケーション力の向上につながっている。(英コ2年)

フィリピン研修

2019年8月11日～18日



「本当に大切なことは、誰も教えてくれない」。これはフィリピンにおける海外ボランティア実習で常に実感することです。実習前の演習の授業でどれだけ工夫を凝らして伝えようとしても、現地の空気は、やはり実感しなければ分からないもの。肌を刺す太陽。止まぬクラクションの喧騒、排気ガスの息苦しさ、突き上げるゴミ山の悪臭、夕方のやさしいスコール、子どもたちの笑い声、人々の温かさ。初めて目の当たりにする都市貧困の現状に、学生たちはショックを受けます。最悪の生活環境で必死に生き抜くスラムの人たち。そしてそれを献身的に支える施設のシスターたち。毎日がリアルな物語の連続です。悩み考え、語り合い、笑い涙する一週間。それぞれの参加者が、決して授業では習えなかった大切なことを胸に帰ってきます。そしてその大切なものを、今度は沖縄で共有します。11月に開催された「沖縄県高大地域連携福祉研究会」において、学生たちはフィリピンの格差社会について報告し、好評を得ました。ギリ学祭ではフィリピン料理の模擬店を出し、売り上げをお世話になったコミュニティの支援にあてました。自ら獲得した大切なものは、これからも彼らの人生を豊かにすることでしょう。



ゼミ紹介 仲里和花ゼミ「異文化コミュニケーション」

英語コミュニケーション学科
仲里和花 准教授

私のゼミでは、異文化を背景に持つ人々とのコミュニケーションに関心のある学生を受け入れています。例えば、沖縄に住む外国人住民とのコミュニケーションをはじめ、沖縄人同士の共文化の違い(世代、職業、性別、地域の違い)によるコミュニケーションの問題、留学生の異文化適応、カルチャーショック、高齢者・障がい者・LGBTなどマイノリティーが抱えるコミュニケーションの問題、アメラジアンやダブルの子どもたちのアイデンティティなど、様々な異文化コミュニケーションに関する課題に関心のある学生が参加しています。

ゼミ生は、日頃、生活の中で感じる「異」について、意見を持ち寄り、テーマを掘り下げ、アンケート・インタビュー調査を通してデータを集め、その調査を通して見えてきたことを考察していきます。「異」を深く探ることによって、多様な視点から批判的に物事を見る姿勢を身につけ、その問題点を分析していく力を培っていきます。



琉球アイデンティティ・サミット Hawai'i

2019年3月22日～24日、ハワイで開催された琉球アイデンティティ・サミット(Loochoo Identity Summit)に本学から学生7名が初めて参加しました。

琉球アイデンティティ・サミットとは、世代や育った場所などを超えて琉球アイデンティティをテーマに語り合える場として、ハワイで2015年から開催されてきました。主催者である「御冠船歌舞団」は、ハワイの沖縄系3世、4世によって1998年に琉球歴史文化および伝統芸能の継承を目的に結成されたNPO法人です。第5回を迎えた今年は、ハワイ州内外の沖縄系コミュニティから200人近くが集まりました。ホームランドである琉球列島からの若い学生たちによる発表や意見交換を通してハワイと沖縄との繋がりが深まり、多くの参加者にとって心に残るサミットとなりました。参加した学生たちにとっては、ハワイのシマンチュコミュニティに盛大に歓迎され、また、グローバルな視点で琉球アイデンティティを考える貴重な体験となりました。

このサミットは毎年3日間の日程でハワイにて開催されます。今後も学生とハワイの沖縄系コミュニティとの交流を通じて、お互いに琉球アイデンティティについて深めていくことが期待されています。



サミットの準備の手伝いをする学生達



基地問題や文化継承についての発表の様子



ハワイのシマンチュのみなさん



英語科 ホスピタリティ&ツーリズム

英語科では将来の沖縄観光産業を担う人材育成という観点から、従来の英語教育に加え、2019年度より観光系科目を充実させた新体制「英語+観光」カリキュラムが開始しました。その中でも「ホスピタリティ&ツーリズム」は現場での研修と講話が聴けるクラスで、沖縄観光産業の最前線を垣間見ることができます。15週間の授業内で、県内企業へ3か所研修に行きます。観光に欠かせないホスピタリティを各企業ではどう取り組んでいるか、研修を通して学んでいきます。

2年目となる授業ですが、今年度も県内で観光に大きく携わっている3社で講話・研修を行いました。前年度に引き続き外国人レンタカーのシェアが最も多い「沖縄ツーリスト」、県内で最も客室数の多い大型リゾートホテルの「リザンシーパークホテル谷茶ベイ」、そしてMICEとしての役割を果たしている「沖縄コンベンションセンター」に協力を頂きました。沖縄ツーリスト(以下OTS)の研修を受け、学生は「訪日外国人のお客様の不安要素を取り除くために多言語ナビの導入や、事故に備えた24時間対応の通訳など、お客様の立場になっている工夫や取り組みを行っていることがわかりました」と述べていました。またOTS課長の島袋氏は「英語は使えて当たり前前の時代にきている」と現場でのコミュニケーションツールの必要性を訴えていました。リザンシーパークホテル谷茶ベイでの研修を終えて学生は「ホテルの主な仕事だけでなく、サンゴの保護活動や小学校の交通安全など+αで活動していることにとっても衝撃を受けました。」「地域貢献をすることによって、県内や国内、海外からの信頼を得られ、リピーターを増やすことに繋がっていると実感しました」など、企業の地域へのホスピタリティ活動を知る機会になったと述べています。沖縄コンベンションセンターではMICE機能の説明と施設見学がありました。研修に参加した学生からは「会議などは夏休みなどのトップシーズンを避けて行われており、どのようにしたら沢山の方が沖縄に来てくれるかなどを研究していることを知りました」「MICEで沖縄をもっと選んでいただくために、県外に芸能団を派遣し、エイサーや琉舞を披露することで、沖縄の良さが県外、海外の人たちに伝わっていると感じました」など、MICEの活用や誘致活動について学べたと述べています。普段は利用者として沖縄コンベンションセンターを訪れる学生ですが、運営側の立場から見るセンターに深い興味を示していました。この3企業を訪問して学生の内面にも変化が見えました。「今学校で学んでいる英語は将来当たり前のようになり使えないといけないといけなくて改めて感じ、学校生活をもっと真剣に過ごそうと思いました。どの接客業にも通用する人になれるように日ごろから、おもてなしの心や親切心を心がけていこうと思いました」などこの経験を糧に自主的に将来の進路や職業について考えてもらいたいです。



OTS 本社ビルにて研修を受ける英語科学生



学んだマナーでいただきます(ブッフェ体験)

英語科 航空ビジネス入門

新カリキュラムには「国際観光ビジネス群」を設け、学生に幅広くビジネス群の科目を履修させています。中でも人気があるのが「航空ビジネス入門」です。航空関係の仕事に就きたいという理由でギリ短英語科を選んだ学生が多いという事もあり、毎年夏休みにも関わらず多くの学生が履修します。今年度も客員教授の戸崎肇先生を軸に、JTAの協力を得て、講義4日間+研修1日という授業形態で行われました。講義には専門職の方々(整備士、パイロット、CA)をゲスト講演者として招き、それぞれの業務内容について語ってもらいました。質疑応答では現役のCAに多くの質問が寄せられ、学生の高い関心度が伺えました。最終日の研修は那覇空港旅客ターミナル内で行われ、本部、荷物運搬所、航空機整備工場などの施設を見学することができます。中でもボーイング機のモックアップ(実物大模型)では貴重な緊急時訓練を体験することができます。学生はこの研修を経て、一つの航空機が多岐にわたる専門職によって支えられている事を学びます。航空産業での就職を目指す学生には、よい刺激になったことでしょう。



英語科 エアラインサービス

春休みに開講する春期集中講座「エアラインサービス」を41名の学生が受講しました。講師の愛甲香織先生は元キャビンアテンダントということもあり、現在アジアを中心に航空業務やホスピタリティを教えています。本講座の人気理由の1つには観光産業で成り立っている沖縄の就職環境があると思われる。特に航空関係は人気があり、2018年度は英語科から7名が就職をしています。他には、ホスピタリティ概論・実践を徹底しているところ。授業ではテキストを使いホスピタリティ概論を学び、ペアとの実践を通して理解を深めていきます。ホスピタリティには接客能力やコミュニケーション能力のみならず、ビジネスマナー、社会人としての心構えや、異文化適応力等が含まれており、観光産業では必要不可欠なスキルとなっています。この授業の期末試験にはグローバル人材ビジネス実務検定(以降G検)を受験します。G検はホスピタリティをどれほど理解しているかを問う試験ですので、集中講座の理解度が試される試験となります。近年、航空関係だけではなく一般企業の中にもG検資格保有者が増えてきています。G検3級以上は資格として履歴書にも記載でき、本講座で多くのことを学び、今後の就職活動に結びつけてもらいたいです。



【G検とは】 日本で働く外国人、そして外国人と協働する日本人のキャリア形成を支援することを目的とした検定です。接客能力やコミュニケーション能力、ビジネスマナーなど社会人に必要不可欠なスキルを測ります。

特別講義 保育科 女性のライフステージにおける保育 ~このとりのゆりかごから見た若年妊娠の支援~

2019年10月18日、赤ちゃんの命を救う「このとりのゆりかご」の開設に関わった助産師・田尻由貴子氏による特別講義が行われ、保育科学生約200人が受講しました。田尻先生は「このとりのゆりかご」の開設の経緯、そして預け入れられた赤ちゃんのその後について、ご自身の経験をもとにわかりやすく話をしてくださいました。また、里親制度や養子縁組制度の課題、保育園や幼稚園などの児童福祉施設を含めた地域連携の重要性、そして予期しない妊娠・出産で悩む人への公的機関による支援や相談体制の充実が求められることなどについても話してくださいました。学生の感想からは、「相談を受けた際には、『傾聴する』『共感する』『親身になる』『寄り添う』を大切にしたい」との声があり、大きな学びとなったようです。今回の特別講義、心より感謝いたします。

また、今回の特別講義は、『よいサマリア人保育園の創設25周年の記念事業』として、同保育園の協力を得て実施されました。よいサマリア人保育園のご協力にも深く感謝申し上げます。



特別講話 保育科 保育士の卵たちへ~届け! 保育現場からの熱いエール~

保育科では、西原町保育連絡協議会と連携しながら保育者養成を行っています。今年は、さざなみ保育園、坂田保育所、愛和保育園の先生方を招いて11月26日に特別講話を実施しました。日々の保育や保育士の役割についてはもちろん、近年増えている支援を必要とする子どもたちや保護者への向き合い方など、現場の先生方から実例を交え話していただき、学生にとって実習後のふり返りにもなりました。講話終了後、学生から「保育士としてのやりがいはいありますか?」「結婚、出産後も仕事を続けることは可能ですか?」などの質問があり、先生方から「子どもたちの笑顔や感謝の言葉がなによりやりがいになっている」「4人の子どもを育てながら保育士を続けています」などの回答がありました。この特別講話を通して、学生は保育者への思いを新たにしました。このような地域との連携は、保育士の質の向上、また地域の課題解決へ向けた取り組みにもつながっています。講話を行っていただきました先生方、誠にありがとうございました。



研究助成費獲得による研究活動

【公益信託 宇流麻学術研究助成基金】

- 沖縄キリスト教学院建学に教員として関わった米国教会派遣宣教師の資料調査
金 永秀 (人文学部 英語コミュニケーション学科 教授)
- 沖縄におけるSDGs研究 教育研究を中心として
玉城 直美 (人文学部英語コミュニケーション学科 准教授)

【科学研究費助成事業】

- 沖縄語の自然会話コーパスの構築：危機言語の記録・保存・復興・研究・習得のために (2019~2021年度)
研究代表者：新垣 友子 (人文学部 英語コミュニケーション学科 教授)
- 島嶼地域における女性の主体的移動と近現代社会に与えた普遍的インパクトに関する研究 (2018~2020年度)
研究分担者：玉城 直美 (人文学部 英語コミュニケーション学科 准教授)
研究代表者：小川 寿美子 (名桜大学)
- オーセンティック・マテリアルの選定方法とそれを利用した効果的な英語教授法の構築 (2017~2019年度)
研究分担者：Christopher Valvona (人文学部 英語コミュニケーション学科 教授)
研究代表者：米田 みたか (武庫川女子大学)
- 観光資源として活かすための八重山諸島群の伝統染織物についての研究 (2016~2020年度)
研究分担者：佐久本 邦華 (保育科 准教授)
研究代表者：又吉 光邦 (沖縄国際大学)

* 保育関係の仕事に就きたいけど、ピアノが弾けないから悩んでいる人はいませんか。キリ短なら、個人で練習できる部屋があり、授業でも優しく先生が教えてくれます。
* また、図書館には、絵本や紙芝居など沢山あるので、勉強も楽しくできる環境です。(保育科2年 平良野斐)

第39回 学内英語弁論大会

2019年11月15日

～新たな試みで今後の盛り上がりを目指す～

「沖縄から世界へ平和を訴え発信していく」人材の育成という理念が本学の建学の精神の中に掲げられています。今年、第39回を迎える「学内英語弁論大会」は、英語によって、多様な個性やバックグラウンドを持つ学生たちが、自らの考えを論理的、批判的、かつクリエイティブに伝える貴重な実践の場となっています。しかしながら近年においては、学生の質の高い発表にもかかわらず、聞き手として参加するオーディエンスが少ないという課題が指摘されてきました。そこで今年度は、学内英語弁論大会を今一度盛り上げていく新たな試みとして、1、2年次が参加しやすい日時設定、ホテル宿泊券や食事券などの副賞の充実、またICTの活用による観客投票“Audience Prize”の導入など、発表者としても、観客としても、よりアクティブに参加できるよう工夫しました。その結果、短大英語科、四大英語コミュニケーション学科から8名の学生が発表者として、また約200名の学生がオーディエンスとして参加し、より緊張感のあるダイナミックな大会となりました。祖母の命を沖縄戦の歴史と重ねて平和の意味を訴えた、英語科2年次の新城味友子さんが優勝し、その他の入賞者も、人種差別問題やアイデンティティ、気候変動やAIなどのグローバルな課題を、学生の経験に基づいた等身大の視点から堂々と発表したすばらしい内容の弁論大会となりました。オーディエンスとして参加した多くの学生たちにとっても大きな刺激となり、今後の大会の盛り上がりが期待されます。



堂々と発表した出場者の学生のみなさん

○学内英語弁論大会結果

第1位	新城 味友子 (英語科2年)	Prayer for peace
第2位	佐々木 絵凜奈 ドゥエル (英コミ1年)	One race
第3位 Audience Prize	伊舎堂 さくら (英語科2年)	“Would You Rather...”
Best 1st Year prize	小林 朋夏 (英語科1年)	A.I. and my future



優勝した新城さん



スマホを使って投票中



発表者のパフォーマンスに熱心に聞き入る聴衆

高校生英語弁論大会

2019年12月14日

12月14日、第31回高校生英語弁論大会が、本学チャペルで開催され、12人の弁士が出場しました。第1位に輝いたのは、普天間高等学校3年生の嘉手刈結花さん、タイトルは「コミュニケーションを通しての成長」で、“理解しようとする心”を持って接することで、家族、そして他の人々とのコミュニケーションが劇的に改善されたエピソードを熱く語りました。第2位は、山城願さん(辺土名高等学校3年)で、「SNSのある生活それともない生活か」と題し、SNSとの付き合い方を様々な角度から論じました。第3位の祖慶さあやさん(首里高等学校2年)は、「達成感を求めて生きる」と題し、祖母の他界を通して知った今を生きる大切さを表現しました。

英語の質疑応答がもっとも優れていた弁士に送るBest Impromptu賞に輝いたのは、新里壮吾さん(沖縄尚学高等学校1年)、学長賞は石川凜樹さん(前原高等学校3年)に贈られました。

今年度から入賞者には本学に入学した場合、Oxford研修、またはハワイ研修、いずれかの海外研修に無償で参加することができる「海外研修奨学金」が授与されます。入賞者の皆様には、本学で研修に参加していただき、益々英語力を磨いてほしいと期待しています。一人でも多くの入賞者に活用してほしい奨学金です。

OKINAWA CHRISTIAN JUNIOR COLLEGE ENGLISH ORATORICAL CONTEST FOR SENIOR HIGH SCHOOL STUDENTS



○高校生英語弁論大会結果

第1位	嘉手刈 結花 普天間高等学校3年	コミュニケーションを通しての成長 Growth Through Communication
第2位	山城 願 辺土名高等学校3年	SNSのある生活それともない生活か Life with SNS, or without?
第3位 Audience Prize	祖慶 さあや 首里高等学校2年	達成感を求めて生きる Living for fulfillment
Best 1st Year prize	新里 壮吾 沖縄尚学高等学校1年	勇気をもって挑戦しよう Be Brave in the Attempt
学長賞	石川 凜樹 前原高等学校3年	皆勤賞の是非を問う Questioning the Need of the Perfect Attendance Award

同時通訳集中講座

2019年8月3日～10日

第27回目となる夏季同時通訳集中講座が、8月上旬の8日間、本学キャンパスで行われました。同時通訳とは「聞いている言語とは別の言語に訳して同時に話す」という高度な通訳のことを指します。この高度な技術を修得するには同時通訳専用機器が必要となり、県内大学では本学にのみこの環境が整っていることから、去年は初級クラス37名・上級クラス31名と大勢の方が受講しました。



修了式

主任講師には、同時通訳者・通訳者養成講師として活躍されている宮田輝彰先生を東京から招き、受講生はプロの助言を受け、経済、スポーツ、政治、観光、IT関係といった幅広いニュースを通訳しました。また沖縄県出身のフリーランス通訳者である玉城弘子先生と大学准教授・通訳者でもある宮國薫子先生を特任講師として招き、通訳体験談や通訳者としての心構え等を踏まえながら指導にあたってもらいました。特別公演としてChristopher Valvona教授によるTBLT(タスクに基づく言語指導方)について語ってもらい、全ての受講生が同時通訳ブースに入りこの公演を同時通訳しました。



特別講演会(上級クラス)



法廷通訳(上級クラス)



逐次通訳



みんなとランチ

学生参加型ワークショップを開催しました

2019年8月30日

8月30日(金)に「学生FDワークショップ」を開催しました。このワークショップは学生が普段授業を受けていて感じることを直接聴き、授業改善や教育改善に役立てていくことを目的としています。第1部では学科別に3つのグループに分かれ、各グループ4～5名の学生とファシリテーター役の教員でディスカッションを行い、第2部で全体の報告会を行いました。第1部のディスカッションでは時間が足りないと感じるほど学生たちが積極的に意見を出し合っていました。今回出された意見は各学科の教育改善のための資料として役立てていきます。



ティーチング・アワード2019

沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学FD委員会では、前年度に行った学生による授業改善・授業評価アンケート等に基づき、教育実践に顕著な成果をあげた教育職員(非常勤講師を含む)に対し、その功績をティーチング・アワードとして顕彰しています。2019年度の実績者は下記の通りです。

沖縄キリスト教学院大学 玉城 直美 准教授 【科目名】ジェンダー論	沖縄キリスト教短期大学 柳田 正豪 准教授 【科目名】異文化共生
---	--

受賞者には表彰状と副賞の奨励金を授与いたしました。



この大学は、先生も学生も仲良く!!得意な事も苦手な事も授業で学べる!!保育や外国語に興味があっても思ってたそのキミ!!ぜひこの大学を考えてみてください!! (保育科1年 眞栄田海斗)

キリ短はキリスト礼拝などがあり、行事もさかんで毎週月曜の礼拝が楽しいです。英語に力を入れており、リスニング、ライティング、スピーキングなどとても英語スキルが上がるのが実感できるのでとても毎日楽しいです。 (英語科1年 城間愛梨)

キリ学祭

We Are Our Island ～沖縄のプロになろう～



OK



2019年11月9日・10日

「キリ学祭を終えて」

英コミ2年次(2019年度学生会長)
山田 楓也

「We Are Our Island ～沖縄のプロになろう～」というテーマの下第55回キリ学祭を開催しました。

今年のキリ学祭は多くの学生が多方面で輝けるような学祭にしたいと考えていました。ステージでの演者を募集した際にはたくさんの学生が応募してくれました。こんなにもみんなが自分の持っている特技や才能を見てもらいたいと思っているならみんなの活躍の場を増やそうと、学生アーティストの出演数を増やしました。今年は、よしもとエンタテインメント沖縄から3組の芸人さんに司会とお笑いライブをもらったおかげで、会場は笑いに包まれていました。日曜日は4年次の先輩お二人が司会をし、パフォーマンスと共に大変盛り上がりました。フィナーレは沖縄を代表するさいやま商店さんが土曜日に、日曜日にはORANGE RANGEさんがものすごく熱いパフォーマンスでキリ学祭を盛り上げ、最高の時間を会場の皆様にお届けできたのではないかと思います。

また、毎年お世話になっている千代田ブライダルハウス様のご協力で素敵なMs.&Mr.のステキな演出ができました。その他、地域の方々や協賛してくださった企業様、スタッフ、出演者の皆様、そして出店して下さった皆様がいてくれたからこそ最高のキリ学祭になりました。ご支援ご協力ありがとうございました。



☆SPECIAL☆



部・サークル紹介

映画研究会 + 写真研究会



沖縄キリスト教学院大学
映画研究会 + 写真研究会
グランプリ!!
Ryukyu Trauma Night Student Competition

映画研究会+写真研究会の混成チームで取り組んだ作品が見事グラプリを受賞しました。桜坂劇場で行われた県内5大学が参加の短編ホラー映画コンペで本学の作品「ゆがみ」がグランプリを受賞しました。監督は英コミの山城晴香さん(3年次)、脚本は山城さんと顧太陽さん(同4年次)、音楽を与那嶺琉さん(同2年次)が担当。彼らに受賞の喜びを語ってもらいました。

私達は、琉球トラウマナイト・学生コンペティションという映像コンテストに、沖縄キリスト教学院大学の代表として初参加しました。県内5大学のサークルが参加し、私達は三人のチームで映画を制作しました。映画作りにおいて、全てが未経験だった為、撮影の仕方や役者さん達への指導が難しかったです。プロの人達からの丁寧なサポートと、お互いに支え合いながら作っていき、優勝する事が出来ました。最終過程で、編集に時間をかけ細部にまでこだわりぬき良い作品に仕上げる事が出来たのが、優勝した決め手だったと思います。又、一生懸命に映画作りを成し遂げた事は、私達にとってかけがえのない時間になりました。

スマイリースマイリー



スマイリースマイリーサークルの活動をするなかで、色んな出会いがありました。施設に訪れ障害児と関わり、私たちが見せるペープサートや絵本、または、一緒にリズムを楽しむことで、子ども一人ひとりそれぞれの反応や表現があり、どんな障害を持つ子でもコミュニケーションを取れるツールはあるんだと改めて感じることができました。そして、子どもたちが楽しんでいる表情を見ると一番やりがいがあり、嬉しく思います。



うちなあ島んちゅ倶楽部

はいさい^{わったー}私達や「うちなあ島んちゅ倶楽部」やいびーん。
日頃^{ひーじー}から沖縄キリスト教学院 同窓会ぬ方々、地域ぬ方々先生とっし招ち、
親先祖^{うやあーふじ}から伝わとーる沖縄の文化・風習、あんさーにしまくとっば皆し語らな
やーんでる倶楽部などいびーん。「^{いち}我ったーや永遠までいん島んちゅや
いびんどー」ぬ心ウマイ肝んかい染みてい、^{うみしーじゅ}思先輩から「^{ちむぐる}うちなあ肝心」
授きらってい、うちなあ思ゆる"ウマイ" 拡大中やいびーん!



私達は「うちなあ島んちゅ倶楽部」です。日頃から、沖縄キリスト教学院 同窓会の方々、地域の方々を先生としてお招きし、親先祖から伝わる沖縄の文化・風習、しまくとっばを学ぶ倶楽部となっております。「我々は、いつまでも島んちゅだ」という思いを心に染めて、先輩方から「沖縄の肝心」を授けてもらいながら、「思い」を拡大しているところです。

また、キリ学・キリ短の先生方や同窓会からのご協力を頂きながら、「しまくとっばランチテーブル」、「しまくとっば講座」、キリ学祭での「しまくとっば劇」を行なっております。自らのルーツを学びながら地域での志の輪を掛け、これからのしまんちゅとしてのスクブン(役割・使命)を果たしていく事を目標としています。

去った11月9日、10日に開催された「第55回キリ学祭」にて、仲里朝章記念チャペルを会場に「しまくとっば歴史ドキュメンタリー舞台劇うちなあぬ道開拓人(みちあきんぐわー：道を切り開く人)」を沖縄国際大学の島んちゅ倶楽部と共に上演しました。沖縄キリスト教学院同窓会の方々と沖縄ハンズオンNPOさんにもご協力を頂きました!

今回の舞台では、民話「姥捨山(あむとうぬしちや)」と社会問題、絶滅の危機にさらされている「しまくとっば」を掛け合わせた舞台を展開しました。また、しまくとっばの歴史を教授陣のインタビュー映像をまじえ上映しました。しまくとっばを愛するメンバー総勢50名と首里城焼失により県民が一つになった今を起点とし、私達学生のこれからのスクブン(役割・使命)について考える舞台となりました!



私は外国人の先生方が多いことが一番キリ学の良いところかなと思います。休講や空き時間があるとき、カフェにいる先生に課題のことで質問したり、英語で雑談できたりと、英語を学ぶ環境が整っていると思います。そして楽しい!!大学生活が楽しく過ごせています。(英コミ3年 富里あきな)

国際交流活動

🌐ハワイ研修・海外幼児教育研修

2019年度研修日程：2020年2月12日～26日

25年以上の交流の歴史を有する協定校「ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジ(米国ハワイ州)」を訪問し、ハワイの伝統文化や歴史、自然を学び、現地の人々の温かいホスピタリティに触れつつ、異文化理解を深めます。英語コミュニケーション学科・英語科の学生が参加する「ハワイ研修」では、現地の人々に向け沖縄や本学について英語でPRする発表の機会があり、普段から学んでいる英語を実践しました。また、空港やリゾートホテルを見学し、ハワイの観光ビジネスについても学びました。保育科学生が参加する「海外幼児教育研修」では、幼児教育施設を訪れ、これまで学んだ保育の知識・技術を活かし、ハワイの子どもたちと交流しました。「研修を通し、自分自身の視野が広がった」「ハワイの歴史や文化を愛する現地の方に触れ、郷土愛の大切さを学びました」などの感想があるように、本研修に参加した学生は、更に積極的に学生生活を過ごし、勉学に取り組む傾向にあります。学生にとって、まさにターニングポイントとなる研修であるといえるでしょう。



ホームステイ



創作ダンスの披露



ハワイの伝統衣装を着て修了式



学外見学



国立植物公園にて



英語でプレゼン発表

🌐台湾研修

2019年度研修日程：2019年8月11日～8月24日



開講式



中国画クラス



台湾の歴史文化を学ぶ

「台湾研修」は、地理的特性が沖縄と類似している台湾の歴史・文化・言語を学ぶことを目的としたプログラムです。主に英語コミュニケーション学科・英語科を対象とし、協定校の「長栄大学(台湾台南市)」にて学びます。中国語学習(初級)をはじめ、台湾の歴史・文化に関する体験授業や、現地学生との交流に加えてホームステイ、博物館や観光施設見学など、多彩なプログラムが用意されています。特徴的といえるのは、本研修中に使用される言語は「英語」が中心となっていることです。本学学生にとっては、普段から学んでいる英語の実践の場となるとともに、英語を用いて新たな言語(中国語)を学ぶ刺激的な機会ともなっています。今回の参加学生は、例年より早く台湾の環境に順応し、日々の授業等をまじめに取り組み、放課後は夜市を巡りながら、タピオカミルクティーを堪能するなど、台湾の生活を存分に楽しみました。「もっと英語と中国語を勉強したかった」「挑戦することの大切さを学んだ」「台湾の食べ物がとても美味しく、幸せでした」など、参加した学生たちから多くの感想が寄せられ、大変充実した研修となりました。



中華料理クッキングクラス



台湾の史跡をめぐる



修了式

🌐ix 沖縄の歴史・文化学習会

実施日：2019年7月6日

本学習会は「沖縄の歴史文化の再発見」をテーマとしたフィールドワークで、地元にいると意外と行かない県内史跡等を巡るバスツアーです。「沖縄県地域通訳案内士」資格を有するスタッフが史跡等の案内を担当し、通訳ガイドとしての心得も紹介します。当日は18名の学生の参加がありました。午前「浦添市美術館」にて漆芸作品を鑑賞し、琉球工芸の奥深さを学びました。中華料理店でのランチをはさみ、午後は首里城公園を訪れ、「首里城跡」「園比屋武御嶽石門」等の世界遺産を中心に見学しました。



浦添市美術館にて漆芸品の説明を受ける



中華料理のランチ



首里城正殿前にて集合写真

特別公開講座

2019年10月19日

体験を通して学ぶタスクに基づく実践的英語教授法



在学生による同時通訳

10月19日「学生のモチベーションを上げる英語の授業—タスクを用いた実践的な英語教授法と教科書開発—」と題して、英語コミュニケーション学科のChristopher Valvona教授による特別公開講座が開催されました。中学・高校の英語教員をはじめ、英語教師志望の大学生の姿も見られ、参加者は70名を数えました。Valvona教授は、タスクに基づく英語指導法について、タスクを実際に参加者に体験させながら、その概要やポイントを分かりやすく説明していました。また、Valvona教授が開発し、ブリティッシュ・カウンシル主催の2019年度革新的語学教育賞で最優秀賞を受賞した教科書の魅力や開発秘話についても話していました。参加者のモチベーションも高まる、充実した学びの機会となりました。



OCUの新しい取り組み "KiriDai-alogues"

2019年11月20日



様々な分野で活動している方々をスピーカーとしてお招きし、自身の経験や学び、考えなどを英語にて共有、ミニレクチャー等を行うプログラム"KiriDai-alogues"を開始しました。記念する第1回目の講師には本学非常勤講師である小久保由紀先生が「Girl Power: Female Role Models across the Globe」というタイトルで話されました。様々な分野で活躍する女性を取り上げ、女性リーダー達が直面した困難、それをどのようにして乗り越えてきたのかについて紹介し、フェミニズムについて考えさせられる講話となりました。在学生、講師を含む約40人がこのイベントに参加し、お昼を取りながら、社会学や女性学などのトピックを英語で学ぶ素晴らしい機会となりました。今回講師を務めた小久保先生は、ニューヨークで育ち、メディアに関わる仕事に長年携われており、海外で培った問題提起や発信力を通して、本学の学生はもちろんすべての参加者が考えさせられるととても有益な時間となりました。本学のこの取り組みはContent-based Instruction(内容重視の教授法)とよばれ、英語で他の科目を学ぶという語学学習法の一環で、今後も学生の知識や視野を深めると同時に、生の英語で情報を得るスキルの向上のために、様々な分野で活躍している方々をスピーカーとして招き定期的に開催される予定です。



🍀 キリ短に来て良かったと思う事は、英語の他にもカウンセリングやキリスト教の授業が受けられることで色々な考え方ができるようになったという事です。(英語科2年 M.Y)

🍀 他の学校よりは絶対に先生と学生の距離が近いと思う。教員のキム先生と何度か一緒に遊びに行ったことがあるが他校ではそんな先生いないと思う。海外ボランティア研修、ハワイアンスタディーズは受けるべき授業。(英コミ2年 ヒゲ ^ ^)

キャリア支援

就職関連

2019年6月4日

進路セミナー



全学科1年次を対象に、「進路セミナー」を6月に開催しました。

進路セミナーはキャリア支援課、学生課、国際平和文化交流センターが主催し、学生自身が大学4年間、短大2年間の学生生活をロードマップで確認しながら、就職や進学、留学などの進路について考えるプログラムです。

学科別のプログラムでは、卒業生を迎えた「OB・OGパネルディスカッション」を実施しました。社会人としてキャリアを積んだ卒業生より、仕事の魅力ややりがいについて、また学生時代の学びが現在の仕事に繋がるなどの話を伝えていただき、学生は将来の進路について幅広く考える良い機会となりました。

2019年度35回開催

T cafe



キャリア支援課スタッフ主催の少人数向け就職ガイダンス「T cafe」(Talk of T)を適宜開催

しています。学内のcafeラウンジを活用し、リラックスした雰囲気の中、就職活動の準備に取り組む学生を支援しています。

2019年度は、「業界研究講座」「エントリーシート(履歴書)対策講座」「筆記試験体験」「ビジネスマナー講座」「内定者の話を聞こう」など、全35回開催し、学生の要望に応える企画となりました。

2019年12月7日～8日

就活体験☆合宿



大学3年次、短大1年次を対象に、1泊2日の「就活体験☆合宿」を12月に開催しました。

この合宿は、就職活動や選考過程で行われる説明会、エントリーシート・履歴書作成、集団面接、筆記試験、グループワーク、グループディスカッション等をダイジェストで体験するプログラムとなっており、毎年好評を得ているイベントです。就職活動に関する情報や事前準備の大切さを知り、3月以降の就職活動について具体的にイメージできる内容で、学生30人が参加しました。

業界研究では、県内各業界を代表する企業をお招きし、航空業界・ウェディング業界・金融業界・ホテル業界について説明をいただき、学生は各業界への理解を深め、興味の対象、視野を広げることができました。

一連のプログラムを終了した学生アンケートでは全員「非常に満足」と回答があり、「就職に対する意識が変わった!!」などの声が聞かれました。



2019年10月17日

キャリア&アカデミック プランニング講座



大学3年次全員を対象に、就職活動と学修の両立を目指し「キャリア&アカデミックプランニング講座」を開催しました。卒業後の社会的・職業的自立に必要な能力を在学中に育むための気づきとなる講座として、キャリア支援課と英語コミュニケーション学科が共同で企画しました。

在学中から卒業後までの「キャリアプラン表」を作成し、学生が主体的に、かつ長期的視点で目標や計画を立てるワークを行い、就職活動については卒業研究スケジュールと重ねた流れを確認しました。また「社会人基礎力」を参考に、社会で求められる能力について考える機会となりました。

また、4年次(就職内定学生)にキャリアプラン表を基にした4年間の過ごし方を、「どの時期にどんなことをすると不安なく就活ができる」、「目標を設定し最後までやり遂げることが大事」など、参考になる話が聞け、3年次学生にとって大きなヒントになりました。

2019年11月9日

保護者向け就職活動セミナー

大学1～3年次、短大1年次の保護者の皆さまを対象にした「保護者向け就職活動セミナー」を、キリ学祭中の11月9日(土)に開催しました。

テーマを「保護者にできるサポートとは?」とし、学生、卒業生、学生支援部長とのディスカッション形式で進め、学生の体験談を通して、現在の就職活動の状況について説明しました。また、就活時のリアルな悩みや、親との関わりについて子どもの立場から素直な

気持ちを伝え、保護者のサポートの大切さを共有しました。



2019年度 図書館行事

2019年度も様々な図書館行事を開催し、多くの教職員や学生のみなさんに図書館を利用していただきました。

4月	●キャリア関連図書フェア ●図書館ツアー(フレッシュマンセミナー等とのタイアップセミナー)	7月	●小説フェア
5月	●4年次向け文献検索セミナー ●ブックトーク開催 ●絵本展 ●絵本読み聞かせ講座	10月	●聖書展 ●留学関係図書展示 ●キャリア関係図書展示
6月	●慰霊の日(平和関連資料展) ●同時通訳(同時通訳関連資料展)	11月	●文献検索セミナー(中級編) ●ビブリオバトル
		12月	●クリスマス絵本展

図書館主催図書フェア・イベント・セミナー等

保育科対象 5月

絵本読み聞かせ講座

日時:2019年5月30日(木)09:00~10:30
場所:SHALOM1-1
講師:平良京子先生(子どもの本研究会)



読み聞かせに最適な"絵本の選び方"って?"読み聞かせ"ってどうやって行えばいいのだろう?というような、実習先での読み聞かせについての悩みや疑問にお答えする、「絵本読み聞かせ講座」を今年度も開催しました。講師には、子どもの本研究会の平良京子先生をお招きして、60分程の講習を行っていただき、その後、参加学生による実技演習を行いました。

今回は116名の学生が参加し、「少しの工夫で子どもたちに感動を与えられる」、「一気に興味をこちら側に向けて方法を学んだ」や「絵本の持ち方、導入の手遊びをたくさん知る事ができた」等のコメントが寄せられ、講座から多くの学びがあったようです。

このような機会を通して、絵本の選び方や読み聞かせの技能を高め、実習で子どもたちに感動を与えてほしいと思いました。

6月

慰霊の日

日時:2019年6月11日(火)~6月27日(木)
場所:図書館1Fロビー



図書館では、6月23日の慰霊の日になんだ平和関連資料を展示しました。すでに戦後75年を経過し、人々の記憶も薄れる中で、県内新聞紙ではしきりに体験談を掲載して次世代へ悲惨な沖縄戦の経験を継承しています。本学でも建学の精神が恒久平和を願うものであることを踏まえて、学生や利用者に所蔵している資料の展示を行い、戦争と平和について考えてもらう機会としました。

10月

聖書展示

日時:2019年10月3日(木)~11月5日(月)
場所:図書館1Fロビー



10月31日の「宗教改革」記念日の前後に、図書館では毎年、所蔵している47ヶ国の「聖書」の展示を行っています。ラテン語や東南アジア諸国の聖書も所蔵しており、学内外に広く知ってもらう機会となりました。

11月

ビブリオバトル

日時:2019年11月28日(木)16:30~17:30
場所:図書館1Fロビー



昨年に引き続き、恒例の「第5回図書館主催ビブリオバトル」を開催しました。今年度は四大の4人のパトラーに加えて保育科から初の参加があり、計5人が熱いバトルを繰り広げました。これまでの授業での演習の成果を発揮しながら、パトラーお薦めの本について語り、5分間のプレゼンテーションを見事にこなしました。会場からは2分間の質疑応答もあり、またチャンプ本決定までの集計の間には、聖歌隊によるクリスマスソングが披露され、優雅な空間を演出してくださいました。

投票の結果、今年度のチャンプ本は、英語コミュニケーション学科3年次杉田ひかるさんの「選ばれる女におなりなさいーデヴィ夫人の婚活論ー」に決定しました。今回観覧された方々、ビブリオバトルに出場された方々、ご協力いただいた聖歌隊のみなさま、本当にありがとうございました。パトラーにご紹介いただいた本を館内で案内いたしました。

12月

クリスマス絵本展

日時:2019年12月3日(月)~12月21日(金)
場所:図書館1Fロビー

クリスマスシーズンに合わせ、12/3(月)~21(金)の間、イエスの誕生やクリスマスにちなんだ絵本を展示しました。本学図書館は県内有数の絵本所蔵館でもありますが、キリスト教関連の絵本も多く所蔵しています。機会があれば、ぜひご覧ください。



私はピアノ初心者で、全く弾けなかったんですけど先生の心優しい授業や指導により少しずつ弾けるようになりました。そこはキリ短を選んで本当に良かったと感じています。(保育科1年)

外国の先生と仲良くなる事ができ、入学する前よりも人見知りしなくなってた皆さんの人と関わることができました! 皆さんwelcomしてください!! (英コミ2年 城間)

キリ短の良いところは先生たちとの距離が近く相談したり、お喋りをしやすいです。また、キャリア支援課の人たちにも相談してみると、とても親身になってくれます。とにかく、周りの先生たちが優しく親しみやすいところがキリ短の良いところです。(英語科1年 野村)

学生支援・活動

2019年度 前後期学内奨学金授与式

前期奨学金は、大学36名、短期大学26名の計62名が採用されました。奨学生を代表し、英語科1年次の平山佐樹さんが挨拶しました。後期奨学金では大学22名、短期大学24名の計46人が採用され、英語コミュニケーション学科3年次の宮城真梨乃さんが奨学生を代表し挨拶しました。前期は今年度から日本基督教団沖縄教区様より4名に奨学金(給付20万)をいただき大変感謝しています。奨学金は本学の後援会・同窓会をはじめとして、県内各企業、個人の皆様からのご支援によるものです。ご寄付いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



ソロプチミスト奨学金

人権と女性の地位向上のため奉仕活動をする国際ソロプチミスト沖縄様の認証44年記念日パーティーが10月25日、那覇市内のホテルで行われました。式典において、ボランティア活動の取り組みを評価され、英語コミュニケーション学科3年次津波古明璃(あかり)さん、保育科2年次新川みくりさんにそれぞれ奨学金10万円、またサークル「スマイリースマイル」に助成金が贈呈されました。



津波古さん・新川さん共に、将来への力強い抱負と奨学金への感謝を述べました。この度は国際ソロプチミスト沖縄様より本校学生の取り組みを評価頂きまして、心より感謝申し上げます。

沖縄キリスト教学院 創立60周年記念募金

修学支援のための給付型奨学金創設

創立60周年記念事業の一環として、修学支援のための給付型奨学金創設事業を進めております。これまでに企業、団体、同窓生、大学関係者、教会の皆様から多大なご支援を賜り心より御礼申し上げます。

¥14,088,633

(2020年2月末日現在)

English Lunch Table 英語系



2009年より開催されているEnglish Lunch Tableは、本学の人気プログラムです。今年度からは、週に2回開催しており、毎回5人から20人の学生が、5人程度の英語教員とシャロームのカフェラウンジで一緒に昼食をとりながら

英会話を楽しんでいます。このプログラムは学生が教員と交流するとても良い機会であり、授業外のリラックスした環境でお互いを知る機会となっています。また学生が授業に関する質問をしたり、海外の文化について学んだり、また軽く雑談をしたりと、このプログラムを有意義に活用しています。

保育科のための English Lunch Table 保育科



英語科のMichael Bradley教授に協力を得て、毎週月曜日の昼休みに保育科学生のためのEnglish Lunch Tableを開催しています。英語に苦手意識のある学生

も楽しく参加しており、毎回有意義な時を過ごしています。海外幼児教育研修に参加したい学生や、英語を学びたい学生にとっても実りの多いプログラムとなっています。

学習支援センターの取り組み

学習支援センター(LSC)は、2018年度に学生によるチュータリングサービスを開始してから2年目になります。今年度は、前期に英語担当5人、ピアノ担当2人の7人、後期に英語担当4人、ピアノ担当2人の6人でサービスの提供とセンターの運営にあたりました。利用者数は、とくに11月において去年の同じ月の倍近くになるなど、堅調に伸びています。毎週1度ランチタイムを利用してチューター全員で行うミーティングでは、支援や周知のあり方についての意見交換や、毎月の活動の振り返りを通して、互いに学びあいを深めています。平日(月～金)の午後にはセンター員と学生チューターが常駐しています。LSCは、学生一人ひとりの学習成果(ゴール)の実現へ向けて、引き続き力強くバックアップしていきます。



この一年の取り組み

沖縄キリスト教平和総合研究所

中村 哲 医師 特別講演会

沖縄キリスト教平和総合研究所 設立十周年記念特別講演会

2019年9月7日

本学院仲里朝章記念チャペルにおいて「アフガニスタンに命の水を～干ばつの大地に用水路を拓く～」と題し、中村哲医師による特別講演会を開催しました。

講師の中村哲医師は、1984年から医師としてパキスタン北西辺境州(現パクトゥンクワ州)の州都ペシャワールや東部アフガニスタンで診療所を開設し、ハンセン病や貧困層への診療活動を行ってまいりました。

2000年アフガニスタンが大旱魃に見舞われ、診療所のある村がまるごと難民化し、村人の生存そのものが不可能な事態にまで追い詰められてしまいました。中村医師は「百の診療所より一本の用水路を」、「飢えと渴きは薬では治せない」と、現地の人たちと共に1600本の井戸を掘り、独自の灌漑方式で全長約27kmの農業用水路と9ヶ所の取水堰の建設を成し遂げられました。

井戸水や農業用水を確保したことによって、アフガニスタンの荒廃した大地を農地として甦らせ、生命の維持と疾病の予防にもつながりおよそ65万人の命が助かりました。この用水路建設は、先進国の高度な技術だけで開発したのではなく、現地の資材や道具を使い、現地の人たちの手でこの先も用水路を維持していけるようにと考えられた取り組みでもありました。

現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、人生の大半をかけて現地の為に働く中村医師の生き方に多くの方が感銘を受けた講演会でした。

2019年12月4日、中村医師はいつものように作業現場へ向かう途中、銃撃されお亡くなりになりました。おらかで謙虚なお人柄と、人々と分け隔てなく共に歩まれた中村医師の姿を私たちは忘れることはありません。

心からご冥福をお祈り申し上げます。



学生の学び合い

2019年8月19日～8月22日

今年も本学を会場に「キリスト教を土台として沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」が開催されました。毎年、西南学院大学(福岡県)と広島女学院大学(広島県)等、県外大学からも参加していますが、今回は、本学と教育・学術交流協定を結んだ敬和学園大学(新潟県)からも学生が参加し、協定の実が成りつつあることが示されました。

沖縄戦体験者の講演では元白梅学徒隊の中山さくさんから、看護助手として戦場を経験したお話を伺いました。また、今年も地元西原町教育委員会のご協力で送迎用のマイクロバスを用意いただき、西原町の戦跡も現地研修のコースとして取り入れ、今まで以上に学びの幅が広がりました。西原町も沖縄戦では激戦に巻き込まれた地です。当時、西原村住民の約半数である5,106人の方が亡くなるという大きな犠牲を払っています。

学生たちは沖縄戦の実相を知り、また長崎、広島それぞれの地における平和学習の取り組み等を紹介し合い、互いに平和を考え学び合う機会を持ちました。この学び合いは2013年から始まり今年で7回目となりました。県内外の学生たちが、それぞれの地から平和を創っていくことを確かめ合うことができるこの機会に、今後もより多くの学生が参加してくれることを願っています。

「沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」が、2019年12月「第1回ちゅうちゅうな一草の根平和貢献賞」を受賞しました。この賞は、平和で豊かな地域社会の実現や、平和に関する県民意識の醸成に寄与することを目的として、沖縄県内において平和につながる身近な社会貢献に取り組む個人・団体へ贈られます。



辺野古で基地建設の現状を知る



ガマの中を体験する



戦争体験者の話しを聞く

特別講演会

2019年6月15日

当研究所では毎年6月23日の沖縄慰霊の日を覚え特別講演会を開催しています。2019年の講師は同志社大学名誉教授の原誠氏で「インドネシア



と沖縄(日本)のキリスト教が交差するところ～民衆史を視野において」と題して講演。太平洋戦争時に日本のキリスト教会は海軍の要請を受けて、インドネシアでの軍政実現のために牧師を派遣しました。日本の教会が戦時下においてどのように国策に協力したのかを、インドネシアを中心に話されました。インドネシアではキリスト教はいったん敵国の宗教として禁止されましたが、日本からの牧師らが軍属として赴き、日本の軍政に協力するための機関として教会活動を再開させていきました。教会は占領政策の一翼を担うものとして積極的に戦争に加担していったのです。こうした歴史の反省に立って、キリスト教はどのように平和に貢献できるのかを考える機会となりました。

地域貢献

西原町教育委員会との調印式を執り行いました。

2019年9月5日(木)に西原町役場にて「西原町教育委員会と沖縄キリスト教学院大学の学校教育支援事業に関する協定の調印式」を執り行いました。この協定では、地域における多忙な学校教育現場の内容と質の向上、大学による「社会に開かれた教育課程」の実現という双方の課題解決を目的としており、沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科で教職課程を履修している学生が西原町内の小・中学校へ行き、英語学習支援や授業補助、学級事務補助など多岐にわたる内容の支援を行います。大濱教育長からは、本学と協定を結んで10年を迎える理科支援事業に続き英語教育においてもぜひ成果をあげてほしいとの期待のお言葉をいただきました。



(左から)島袋清指導主事、大濱進教育長、友利廣学長、照屋信治教授

学校ボランティア実習

「西原町内の小中学校へ行くと、どの学校でも、キリ学の学生達が児童・生徒に学習支援をしているというシーンが見られます。」そんな素敵な状況を目指して、2019年度より学校ボランティア実習が開始されました。英コミ2年次の後期に設定された科目で、教職履修者を中心とした受講者は、月曜日の午後に西原町内の2中学、4小学校を訪ね、様々なボランティアを行います。内容は、学習支援、授業補助、学級事務補助、清掃指導、放課後の学習支援、部活動の安全確認の支援など多岐にわたります。教職履修者にとっては2年次という低学年の段階で、教師側の立場で学校教員の仕事を体験し、自身の適性を見極め、やり甲斐を見つけるというメリットがあります。実習校側にとっては、地域との連携により、教育内容の充実、多忙化の解消につながればと思います。履修者からは「大変だけど、楽しく、ためになった」という声が聞かれました。



はじめまして! 西原小学校の4年生に逆上がりを教えています!

地域に根ざした理科教育支援事業

本学院では、西原町立の小学校教諭並びに児童を対象とした理科教育支援事業を行っています。

現在起こっている現象と教科書で違うことが、みなさんにも多々あるでしょう。理科では、その現象をなぜなのか考える。それが面白いと思います。このような理科の魅力を小学生に伝えるため、本学でスタートした理科支援事業も10年(2009年開始)を超えました。その間に様々な分野で支援を行ってきました。

今回は、生物分野の支援事例を紹介します。生物分野の支援で多く依頼を受ける単元は、「生命のつながり」で顕微鏡を使用した微生物の観察です。教科書には数種類の微生物が紹介されています。しかし、これらの微生物はあまり観察できません。そのため、本単元での支援は、校庭等の身近な池から水を採取し、観察



可能な微生物を確認します。授業は観察できる能力がある微生物を紹介した後、顕微鏡で観察します。子どもたちが観察を続けても微生物を観察できない場合があるため、ピントを合わせた試料も事前に用意しています。



本年度入学生に理科支援で出会いがあった学生がいました。このつながりができた理科教育支援事業に大変感謝しています。今後も理科好きの子どもが増えていくことを願い継続していきます。

ワイワイプラザ in キリ短

ワイワイプラザinキリ短が開催されて、10年余りになります。開催においては、地域子育て支援実習の科目において取り組まれています。学生たちは、現代社会における保育課題を捉え、どのようなことが地域に求められ、親子に必要なのかについて考えます。そして身近な親子の状況について話し合い、乳幼児の発達年齢を視野にいれ、求められている親子支援内容を検討します。

さらに、地域の子育て支援事業を調べワイワイプラザinキリ短から、各々の親子が住んでいる地域子育て支援事業へ繋いでいくことを目標とします。そのような背景を基に本年度は、「親子でハロウィンパーティー みんなでトリックオアトリート」と題して開催することができました。参加した親子が「お父さんと一緒に〇〇して楽しかった」と満面の笑顔で帰っていきました。その姿に、学生たちも温かい気持ちになり充実感に満ち溢れていました。ワイワイプラザinキリ短は今ではすっかり、地域の方々にも親しまれ事業開催が期待されるようになっていきます。



小麦粉ねんど体験



大型パズル

出前講座

本学の教員が県内高等学校を訪れて、高校生を対象に、大学での「学ぶ喜び、面白さ」を伝える講座を行います。学問への興味、学ぶ意欲の向上に繋がり、将来のキャリア形成のヒントとなる大学の講義を、高校生に体験していただくことを目的に行っている講座です。

2019年度の実施状況は下記の通りです。



教員名	講座名	実施校
上地恵龍 副学長	●「観光の扉」～モノ消費からコト消費へ～ 沖縄観光のおもしろさをもっと知ろう!もって伝えよう!	浦添商業高校
ChristopherValvona 教授	●「英語を使って学ぶWidgetsの学び方」	浦添商業高校 西原高校
玉城直美 准教授	●「ブラックバイトに騙されるな!」～バイトと学業の両立を目指して～	宜野座高校
	●「SDGs」～沖縄の地域課題を世界の目標から見ていこう～	西原高校
柳田正豪 准教授	●「台湾を学ぼう!」※2回実施	知念高校
佐久本邦華 准教授	●「新聞紙アートで遊ぼう!」	宜野座高校

第6回グッジョブ☆にしはらわくわくワークを本学で開催しました

12月1日に小学生を対象とした「子ども達自身が自分の将来像を考える場をつくる」ことを目的としたグッジョブにしはらわくわくワークが本学で行われました。西原町との地域連携事業として本学で開催され、普段の大学とは違った雰囲気にもまれ200人を超える小学生がお仕事体験を楽しんでいました。本学からも新垣誠教授が国際協力のお仕事紹介で参加し、海外ボランティア実習でフィリピンへ渡航した英語コミュニケーション学科の学生たちと一緒に、スラム街で行ったボランティア活動の経験を、ビデオや写真を見せながら説明していました。



公開講座のご案内

沖縄キリスト教学院では、地域に開かれた大学を目指し、大学における知的財産を社会に開放しています。生涯学習を目指す方々にさらなる学習の場を提供するため様々な公開講座を開講していますのでぜひご参加ください。概要については、公式ウェブサイトに掲載しています。

2019年度講座一覧

●前期

- 接客英会話講座
- 英検2級&基礎文法講座
- キリ学で学ぶわくわく留学準備講座
- エアライン就活入門
- スラスラ読めるヘブライ語!
- 親子で学ぶ科学の世界～万華鏡を作ってみよう～
- 心理テストで自分の性格を知ろう!!

●後期

- 同時通訳講座(中級)
- 小学校の先生のための英語発音基礎講座
- 旅行英語/Travel English
- Oasisで学ぶ英語
- スラスラ読めるヘブライ語!
- 組織行動論～リーダーシップとモチベーション～
- ヴァンヤサヨガ

2019年度連続講座

2010年2月から始まった本講座は「戦後の沖縄における教会の歩みと回顧-苦難の中での平和の願い-」をテーマとした沖縄戦後のキリスト教の歩みを辿りました。地域や教会に向けて実施してきた本講座は今年で10年目となり、更に幅広くキリスト教と沖縄と平和に関する内容で講座を展開しています。

第Ⅷ-1回	2019年12月7日	第Ⅷ-2回	2020年1月18日	第Ⅷ-3回	2020年3月1日
日本人口の急減少と放射線被曝		『平和な空を守る』条例を目指して		米軍による占領体制の固定化と1950年代における沖縄キリスト教会自立の試み	
講師: 矢ヶ崎 克馬 氏 沖縄キリスト教短期大学客員教授 平和総合研究所客員研究員		講師: 小林 武 氏 弁護士 憲法学者 平和総合研究所客員研究員		講師: 一色 哲 氏 帝京科学大学教授 平和総合研究所客員研究員	

「思い出」

沖縄キリスト教短期大学
英語科教授

作田 真由子



私は沖縄キリスト教短期大学英語科の教員として、15年間お世話になりました。心に残っているのは、面接に向かう時、初めてバスの窓から目にした灰色の建物。ここで働めることができたらいいなあとワクワクしました。それから、渡嘉敷島の青い海。礼拝やキリスト教講演会。ホームレスに住居を世話することで3000人近くを助けた奥田知志牧師の講演は特に印象に残っています。(この原稿を書いている少し前に、アフガニスタンで銃撃され亡くなられた中村哲氏の訃報が入ってきましたが、キリスト教の心を実践された方だと感じます。)それから、思い出すのは、それぞれに才能を持った同僚たち、親切で勤勉な職員の方々。学生たちは赴任当初、本土の学生と比べると、反応がゆっくりしているので戸惑いましたが、

いったんこちらの意図が浸透すると、後までしっかり残ることがわかりました。夜遅くまでアルバイトをしながら夢を達成しようとする学生たちの努力には、私が大学生だった頃のゆるさと幼さを思い出すと、本当に頭が下がります。これから先の世界は、地球資源が減少し、資本主義の限界が顕著になり、自国ファーストの風潮が強まっていくのではないかと懸念しています。最近締結された日米FTA(まだ2項目)の日本への負の影響も心配なら、AIが学生たちの職業生活にどう影響するののかも心配です。ただ、学んだことを生かしながら学生たちが遅く生きてくれることを願うばかりです。

同窓会 活動報告

同窓会定期総会及び懇親会

日時: 2019年6月25日(火) 午後7時
場所: 学内SHALOM会館
特記: 海勢頭豊氏講話『琉球文明の発見』

※同窓会から卒業生へ
卒業生の皆様は全員同窓会会員です。同窓会へご参加くださいますようお願いいたします。



同窓会定期総会



海勢頭豊氏

同窓会福引&茶話会(キリ学祭参加)

日時: 2019年11月10日(日) 午後1時
場所: 学内ユニオン(学食)
特記: 舞台劇『うちなあめ道開拓人』キリ学サークル島んちゅ倶楽部主催・同窓会共催(同窓会役員3人出演)



舞台劇『うちなあめ道開拓人』



学生との懇親会

街まーい

日時: 2019年11月30日(土) 10時
場所: 首里三箇(赤田、鳥堀、崎山)
特記: 首里城焼失後でNHK及び琉球新報も同行(案内は那覇市街角ガイドの方々)



街まーいの様子

同窓会からのお願い

同窓会ではデータによる会員名簿の整備を進めています。変更等をお知らせください

- ① 住所
- ② 氏名
- ③ 電話番号
- ④ 勤務先

【連絡先】 TEL/FAX: 098-946-1280
同窓会事務局 E-mail: dousokai@ocjc.ac.jp



後援会 活動報告

2019年3月18日(月)、評議員会を開催し、比嘉國郎会長の就任挨拶に続き2018年度事業報告及び決算と2019年度事業計画及び予算案の4議案が審議されました。



後援会定期総会



奨学金授与式

2019年4月1日(月)、入学式終了後に総会開催。前里光信副会長が議長を務め、4議案が提案どおり承認されました。

2019年12月17日(火)、奨学金授与式が執り行われ、後援会より9名の学生に給付型奨学金が授与されました。その他、教育活動事業全般と施設設備の援助、キリ学祭や県外就活学生への支援なども行ってまいります。

寄付感謝報告

寄付指定(2019年1月1日~12月31日まで)

寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。
個人(361件/¥6,440,737) 団体(58件/¥14,285,783) 合計(419件/¥20,726,520)

施設設備資金		奨学金		60周年記念募金奨学金		学生会活動援助費		その他			
同窓/在学生(個)	1	20,000	企業	9	780,000	父母(個)	2	15,000	団体	2	62,332
一般(個)	1	5,033	団体	2	150,000	同窓/在学(個)	115	868,500	合計	2	62,332
団体	2	200,000	宗教(個)	1	100,000	一般(個)	3	610,000	教育活動		
宗教(個)	1	3,000	宗教団体	5	1,400,000	企業	20	1,276,000	同窓/在学生(個)	1	5,000
教職員(個)	2	21,000	学校関係者(個)	2	413,000	団体	1	50,000	団体	1	50,000
後援会	1	2,915,000	教職員(個)	5	170,000	宗教(個)	8	1,105,000	宗教団体	1	55,000
合計	8	3,164,033	同窓会	1	600,000	宗教団体	9	422,451	教職員(個)	2	4
			後援会	1	2,825,000	学校関係者(個)	10	1,051,000	後援会	1	3,000,000
			合計	26	6,438,000	教職員(個)	205	1,916,200	合計	6	3,110,004
						合計	373	7,314,151			

2019年度人事

●学校法人沖縄キリスト教短期大学

2019年4月1日付
【教育管理職任命】
上地 恵龍 副学長
浜川 仁 短期大学部長(学習支援センター長兼任)
新垣 友子 英語コミュニケーション学科長
柳田 正豪 英語科長
佐久本 邦華 保育科長

【専門的業務に係る事務職員任命】(2019年度新設)
原田 春美 カリキュラム・コーディネーター
金城 繁正 アドミッション・オフィサー

2019年9月20日付
【理事の退任】
大城 実

●沖縄キリスト教短期大学

2019年4月1日付
【採用】
山城 真紀子 保育科特任教授
スミス 陽子 英語科特任講師
戸崎 肇 英語科客員教授
愛甲 香織 英語科客員教授

【昇任】※カッコ内は前職位
佐久本 邦華 保育科准教授(講師)

【異動】※カッコ内は前所属
内間 清晴 英語科教授(総合教育系)
仲座 栄利子 英語科准教授(総合教育系)

2020年3月31日付
【退職】
友利 廣 学長
作田 真由子 英語科教授
スミス 陽子 英語科特任講師

●事務職員

【採用】
2019年4月1日付
森 龍人 企画推進課書記
渡久地 あゆみ 教務課書記
仲真 みき 入試課書記

【異動】※カッコ内は前所属
2019年6月1日付
金城 繁史 総務課書記(教務課)

2019年9月1日付
浜川 みゆき 図書課主任(学生課)
上間 里子 学生課書記(総務課)

【退職】
2019年9月30日付
渡慶次 智子 図書課長
仲真 みき 入試課書記

2019年12月9日付
金城 太 企画推進課主任

2018年度決算報告

2018年4月1日から2019年3月31日まで

資金収支計算書 (単位:千円)

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生生徒等納付金収入	722,013	人件費支出	568,595
手数料収入	13,489	教育研究経費支出	172,871
寄付金収入	27,560	管理経費支出	41,774
補助金収入	110,789	借入金等利息支出	273
資産売却収入	0	借入金等返済支出	36,000
付随事業・収益事業収入	9,111	施設関係支出	845
受取利息・配当金収入	3,304	設備関係支出	15,536
雑収入	20,875	資産運用支出	70,000
借入金等収入	0	その他の支出	23,686
前受金収入	323,988		
その他の収入	8,040		
資金収入調整勘定	△ 359,615	資金支出調整勘定	△ 20,975
前年度繰越支払資金	1,114,675	翌年度繰越支払資金	1,085,624
収入の部合計	1,994,229	支出の部合計	1,994,229

貸借対照表 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
科目	本年度末	科目	本年度末
固定資産	3,312,847	固定負債	225,157
有形固定資産	2,454,344	流動負債	354,254
特定資産	851,000	負債の部合計	579,411
その他の固定資産	7,503	純資産の部	
流動資産	1,093,582	科目	本年度末
		基本金	4,456,111
		繰越収支差額	△ 629,093
		純資産の部合計	3,827,018
資産の部合計	4,406,429	負債及び純資産の部合計	4,406,429

事業活動収支計算書 (単位:千円)

科目	決算額
教育活動収入計	900,617
教育活動支出計	871,290
教育活動収支差額	29,327
教育活動外収入計	3,304
教育活動外支出計	273
教育活動外収支差額	3,031
経常収支差額	32,358
特別収入計	3,515
特別支出計	736
特別収支差額	2,779
基本金組入前当年度収支差額	35,137
基本金組入額合計	△ 38,159
当年度収支差額	△ 3,022
前年度繰越収支差額	△ 626,072
基本金取崩額	0
翌年度繰越収支差額	△ 629,093

(参考)

事業活動収入計	907,437
事業活動支出計	872,299

- 【資金収支計算書】は、1年間のすべての収入と支出の内容を表し、当該会計年度における支払資金の顔末を明らかにしたものです。
- 【事業活動収支計算書】は、経常的な収支(「教育活動収支」と「教育活動外収支」と)と臨時的な収支(特別収支)のそれぞれ三区分の1年間の事業活動収入と事業活動支出を表し、当該会計年度における収支均衡状態を明らかにしたものです。
- 【貸借対照表】は、当該会計年度末における財政状態を明らかにしたものです。

オープンキャンパス

OPEN CAMPUS 2020

『体験授業』、『入試対策』、本学教員による『入試個別相談会』など
志望校選択の決め手となるプログラムが充実しています。
当日は沖縄本島内に送迎バスを6ルート走らせます!!

事前申込不要

社会人も見学OK!

保護者同伴OK!

1・2年生参加OK!

送迎バスあり!

第1回

7/4
土

第2回

8/22
土

第3回

10/31
土

第4回

2/20
土

時間は共通

13:00~16:00

※詳しくは本学ホームページまたは
入試課までお問合せください。

各学科の先生から
実際に学べる!!!!



知りたいことは気軽に
先輩に質問!



キャンパス見学



気になる入試情報を
しっかりチェック!



個別、仲間同士でゆっくり話を聞きたい方のためにキャンパス見学も随時受け付けています。落ちついた雰囲気の中で試験の内容や学費等じっくりと相談できます。体験授業などもご希望に応じて実施いたしますので、事前に入試課までご連絡ください。

入試課: TEL.098-945-9782

2021年度 入試日程

総合型選抜(A日程) 10月3日(土)、10月4日(日)

学校推薦型選抜 11月28日(土)

一般選抜 2月6日(土)

総合型選抜(B日程) 3月9日(火)

